

## 方法書に対する京都市環境影響評価審査会委員等からの御意見

平成26年3月12日に開催された平成25年度第5回京都市環境影響評価審査会での御意見、及び欠席委員等から寄せられた御意見を下表にとりまとめた。

		主な御意見	答申案
全 般 的 事 項	環境要素	○配慮書に対する市長意見では、良好な植生が形成されている桃山御陵周辺の現地調査を求めているが、植物が環境要素に選定されていない。	環境要素に植物を追加すること。また、自社用地内で工事が完結する区域であっても、一定の植生が存在する区域を改変する場合にあっては、当該区域に係る植物の現地調査を行うこと。
	予測の前提	○列車の増発が本事業の目的ではないとしても、ある程度の需要予測を踏まえた予測・評価が行われるべきではないか。	現行の列車本数をもって予測した根拠を準備書では記載すること。
		○踏切の遮断時間が変化することにより、交通渋滞を引き起こすおそれがある。 ○ダイヤの過密化が渋滞を引き起こすのではないか。	踏切の遮断時間が変化することにより、交通渋滞を引き起こすおそれがあることから、事業実施前後の遮断時間の増減見込みについて、準備書に記載すること。
	その他	○工事用車両の安全対策が必要である。	工事用車両の通行等による交通環境への影響を低減するよう、安全対策に取り組むこと。
騒音・振動	列車の走行速度	○複線化後、列車の走行速度が速くなるのであれば、騒音・振動への影響を考慮すべき。	複線化に伴い列車の高速化が図られるか否かについて、その根拠とともに準備書に記載すること。また、複線化後の列車速度に基づく予測及び評価を実施すること。

騒音・振動	調査地点の追加	<p>○住宅・学校・保育園・病院等多くの人が集う施設を重点的に調査すべき。</p> <p>○病院・学校等を考慮して測定地点を設定したと方法書に記載されているが、考慮されているとは考えられない。</p> <p>○騒音・振動の影響が最も大きくなる地点（線路に接する住居・学校施設等）を、測定地点とすべきである。</p>	<p>方法書で示された騒音及び振動の調査地点では、環境影響評価が不十分となる可能性が高いことから、複線化により最も影響を受けると想定される線路に近接する施設を調査地点に追加すること。その際、住居、学校、保育園及び病院を優先的に追加すること。</p>
	調査回数	<p>○平日・休日各1回の調査が予定されているが、季節変動による影響を把握できないのではないかな。</p>	<p>鉄道事業は、通年で行われるものであるから、年間を通じて複数回調査を実施し、季節による差違や変化を把握しておくことが望ましい。</p>
	予測	<p>○上り下りの両線がすれ違う地点では、単線の場合に比べて、影響は大きくなるので、すれ違い時の予測も必要である。</p>	<p>環境負荷が最大となる要因及び環境負荷を低減する要因を踏まえた予測を行うこと。</p>
	環境保全措置	<p>○ロングレールの採用や防音壁の設置等の環境保全措置が予定されているが、準備書では、具体的な措置区域、実施時期、あるいは措置を行う条件についての事業者の考え方が示されるべきである。</p>	<p>環境保全措置の実施に向け、具体的な措置区域、実施時期及び措置を行う条件についての考え方を準備書に記載すること。</p>
	情報提供	<p>○本事業では、夜間工事が中心になるようだが、工事を行う期間及び時間帯について、丁寧な地元説明を要望する。</p>	<p>工事の実施に際しては、あらかじめ周辺地域の住民に対し、詳細情報の提供と丁寧な説明を実施すること。</p>
動物		<p>○オオムラサキ及びオオウラギンヒョウモンに限った調査では不十分である。</p>	<p>オオムラサキ及びオオウラギンヒョウモンに加えて、沿線のまとまった緑地において、動物の生息調査を行うこと。</p>
		<p>○鉄道線路の存在が、北側に位置する桃山御陵と南側に位置する木幡池等のつながりを分断しがちであることから、その影響を極力抑えるような施工方法を検討されたい。</p>	<p>動物の生息地の分断対策として、線路を安全に横断するための横断路等の措置を検討すること。</p>

景 観	○桃山御陵周辺は、優れた景観を形成しているが、調査地点として選定されていない。	防音壁等が設置されることにより景観への影響が想定されることから、桃山御陵周辺を景観の調査地点に追加すること。
--------	-----------------------------------------	--------------------------------------------------------